

引きこもり 若年無業者71万人+中高年引きこもり61万人

平成31年4月の労働力調査によると、就業者数6708万人、完全失業者176万人となっている。新聞記事に示される若年無業者と中高年引きこもりの多くは、仕事をする意思を示していないので、完全失業者人数には含まれない。この人数に入っていない数字合計132万人である。実に大きい。

日本はまだ基本的には新卒者採用である。卒業した年の幸不幸によりその後の一生が左右される。132万人の中には運悪く、意図しなかった会社に就職し、努力はしてみたものの会社に合わずに退社した方も多く含まれているものと思う。

日本の会社は、自社の業容に合わせて社員を社内で教育するのが特徴である。会社を辞めると強い決意がない限り、自分自身を教育する機会が少なくなる。その結果、社会に取り残されていく悪循環に陥る。多くの方々がこのポケットに落ちた結果がこの数字に表れているのだろう。

世は人手不足、海外からの就業者を当て込む時代である。海外人材の教育にも金と時間がかかる。日本の132万人は国に忘れられた存在となったのか。新卒時の運不運を、ただ単に「運が悪かったね」で済ますことなく、万人に平等に挑戦できる場を提供すべきである。そのためには、国家主導の教育プログラムへの参加を促し、失われた時間を取り戻させる、そんな活動が今まさに求められている。

日本経済新聞 2019.6.18夕

中高年ひきこもり61万人

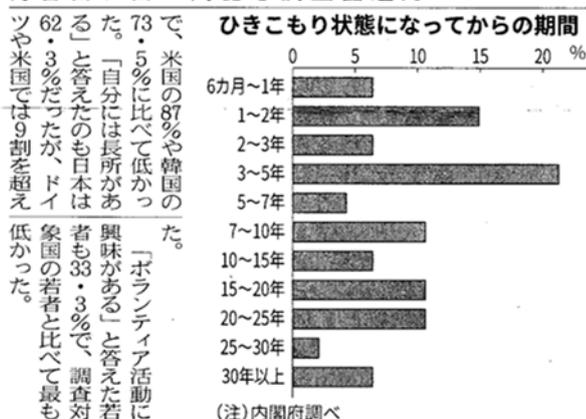
子ども・若者白書で初特集

政府は18日、2019年度版「子ども・若者白書」を閣議決定した。自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」を初めて特集した。40〜64歳のひきこもりが全国で推計61万3千人いると紹介した。仕事も通学も求職もしない「ニート」を含む若年無業者数は18年で約71万人と昨年調査とほぼ横ばいだった。

政府は18日、2019年度版「子ども・若者白書」を閣議決定した。自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」を初めて特集した。40〜64歳のひきこもりが全国で推計61万3千人いると紹介した。仕事も通学も求職もしない「ニート」を含む若年無業者数は18年で約71万人と昨年調査とほぼ横ばいだった。

内閣府はひきこもりを、家や自室からほとんど出ない状態に加え、趣味の用事など以外に外出しない状態が6カ月以上続く場合と定義する。調査は全国で無作為抽出した男女5千人に、18年12月7日から24日まで訪問で実施した。

白書は日本の若者の自己肯定感が低い例についても特集した。「自分自身に満足している」と答えたのは日本は45・1%



で、米国の87%や韓国の73・5%に比べて低かった。「自分には長所がある」と答えた若者は33・3%で、調査対象の若者と比べて最も低かった。